

能 能 あそび

2026
有斐齋弘道館 連続講座

全4回

演目・演出の
詳しい説明も!

2 / 13 ① 土	12 / 26 ③ 土	8 / 22 ② 土	5 / 17 ④ 日
2027年			2026年
能劇「隅田川」	謡曲 蓄音機で聴く	「仕舞十番」 恒例!	特別講演 「天皇と能」 寛永行幸をめぐって

舞、声、座敷、庭
江戸時代の学び舎で感じる能

講師 林宗一郎 改メ

林喜右衛門

林喜右衛門家十四世当主
能楽師シテ方観世流職分



撮影=久保田康夫、撮影協力=二条城

会場 第1回 | 京都府立京都学・歴彩館、第2~4回 | 有斐齋弘道館 または オンライン配信 (第2回・第4回のみ)

開催時間 第1回 | 11:00~12:40、第2~4回 | 15:00~16:30

参加費 会場参加 4回一括 (第2~4回は呈茶付) 15,000円
 4回一括アーカイブ動画付 (第2回・第4回 呈茶付) 19,000円
 各回 第1回 | 5/17 「天皇と能」 無料 (呈茶なし)
 第2回 | 8/22 「仕舞十番」 7,000円 (呈茶付)
 第3回 | 12/26 「蓄音機で聴く 謡曲」 5,000円 (呈茶付)
 第4回 | 2/13 「隅田川」 7,000円 (呈茶付)

オンライン配信 第2回&第4回 | 2,000円 (アーカイブ動画付) *金額は税込です。

申し込み・問い合わせ先

有斐齋弘道館事務局 TEL 075-441-6662 E-mail info@kodo-kan.com
https://kodo-kan.com/classes/nohasobi2026/



江戸時代に全国から門弟を三千人集めた学問所「弘道館」で、江戸時代から続く京観世林家十四世・林喜右衛門さんが、能学を全方位から解剖し、新たな解釈をお伝えします。ご来場のみなさまと一緒に、未来の能を展望し、作り上げることができればと考えています。

「あそび」とは、ある種の試みでもあります。江戸時代の豊かな「知」に学びながら、学問所ならではの能楽を「あそび」ます。たとえば、能舞台上で常にしているもの・ことを、座敷で展開するとすれば、どうなるのか——。定番となっている上演形式に、「新たな形」はないのか——。能楽の歴史に新たな1ページが開かれるかもしれません。

今年は、武家と公家とが文化的融和を果たした寛永行幸から四百年を迎えます。当時、二条城において、後水尾天皇の前でも能学が上演されました。今回、表紙写真用に林喜右衛門さんには二条城の黒書院で仕舞を舞っていただきました。寛永行幸を契機に、能学をはじめとする文化が社会にどのような影響を果たしたのか、注目いたします。

能楽の歴史を振り返り、未来へつなぐ「能あそび」。六百年の歴史を伝える能楽師の新たな挑戦と、伝統的な建物を未来へつなぐ有斐斎弘道館の挑戦に、ぜひともご理解とご支援のほど、よろしくお願いいたします。



講師 京観世五軒家のうち、唯一残る林喜右衛門家十四世当主、能楽師シテ方観世流職分。重要無形文化財保持者(総合認定)。京都府文化奨励賞受賞。3歳で鞍馬天狗の花見役にて初舞台。オペラ歌手や歌舞伎役者と共演するなど、様々な分野で能楽の魅力を伝えている。

林喜右衛門

講座のポイント

- 講師が演目や演出についての詳しい解説を行います
- 能楽の歴史に触れ、未来について一緒に考えてまいります
- 有斐斎弘道館で開催する回では演目のテーマに合わせたお菓子をお召し上がりいただきます

第1回

寛永行幸をめぐって
「天皇と能」
特別講演
5/17(日)
2026年
11時~12時40分

寛永行幸を契機として、能楽がどのように将軍と天皇に受容されたのか、そして、それぞれの立場にとってどのような意味を持ってきたのかを辿り、松岡心平先生とともに能楽の歴史的背景を紐解きます。

松岡 心平 東京大学名誉教授
林喜右衛門 能楽師シテ方観世流

場所：京都府立京都学・歴史館 大ホール
※会場および開始時間が通常と異なりますのでご注意ください

第3回

蓄音機で聴く謡曲
12/26(土)
2026年
15時~16時30分

100年前の蓄音機で、100年前の謡を聴いてみませんか。往時の名人たちの声が刻まれた音源を通して、能の声の魅力と表現の奥行きを体感します。林喜右衛門さんによる実演付きで、過去と現在が交差するひとときをお届けします。

林喜右衛門 能楽師シテ方観世流
梅田 英喜 蓄音機専門店 梅屋

場所：有斐斎弘道館

第2回

恒例！「仕舞十番」
8/22(土)
2026年
15時~16時30分

「当麻」・「景清」・「江口」・「三井寺」・「善界」・「玄象」・「小督」・「柏崎」・「恋重荷」・「殺生石」

仕舞とは、能一曲の中でも、面白い、また動きのある「見せ場」のみを取り出し、紋付袴の姿で舞う形式です。「能あそび」では、一人でいちどに十番を舞うという、これまでにない試みが続いています。一人で十曲をいかに演じ分け、どのように表現するのでしょうか。座敷ならではの、間近に見る仕舞をお楽しみください。

林喜右衛門 能楽師シテ方観世流
河村 晴道 能楽師シテ方観世流
味方 團 能楽師シテ方観世流
松野 浩行 能楽師シテ方観世流
河村浩太郎 能楽師シテ方観世流

場所：有斐斎弘道館

第4回

能劇「隅田川」
2/13(土)
2027年
15時~16時30分

「能あそび」では「座敷で演じる能」にこだわり、試行錯誤を続けてきました。無駄を削ぎ落した芸能と言われる能楽を、さらに削ぎ落して、まるでデッサン画のような演出はできないか。紋付袴姿で能楽作品の骨格を浮かび上がらせる試み「能劇」。本年度は「隅田川」に挑戦いたします。

「隅田川」は、我が子をさらわれた母が、狂女となって諸国をさまよい、隅田川のほとりでわが子の死を知るという物語です。渡し守の語る過去と、現れる子の霊との邂逅を通して、母の悲しみと祈りが静かに描かれます。能の中でも特に深い精神性を持つ作品として、古くから大切に演じ継がれてきました。

場所：有斐斎弘道館

※日時・内容・出演者等、変更の可能性がございます。ご了承ください。

有斐斎弘道館
YUHEISAI KODOUKAN

有斐斎弘道館(ゆうひさいこうどうかん)は、江戸時代を代表する儒者、皆川淇園(みながわきえん/1734~1807)の学問所「弘道館」址に建つ文化的建造物を保存しつつ、江戸時代の教養文化を楽しみながら考え、広めていくための活動を行っています。

寄附のお願い

有斐斎弘道館では、貴重な文化資産を次世代に引き継ぐために、ひとりでも多くの方々にご賛同、ご協力をお願いしております。ご寄付について詳しくはウェブサイトをご覧ください。

